

(3) 思春期心理科

概要、特色

思春期心理科では、通常の外来診療に加え、以下のようなチーム医療を展開している。

(a) 思春期外来

平成14年6月から、月2回の思春期外来を開始した。総合診療部思春期診療科医師2名、第一専門診療部婦人科医師2名、およびこころの診療部思春期心理科医師1名が担当している。この外来の初診は、直接外部から受ける形ではなく、成育医療センターの総合診療部、こころの診療部、周産期診療部および専門診療部からの内部紹介の形を取っている。年齢としては、10歳から20歳までの方を対象としている。目的としては、思春期年齢に特有な疾患を対象に、複数の科で連携し、患者にとって受診しやすい外来環境のもと、効率のよい全人的な医療を提供することを目指している。対象となる疾患としては、二次性徴や性腺機能の異常(思春期遅発症、性腺機能不全症、月経異常等)、食行動異常(摂食障害等)、その他、思春期の性の問題を幅広く扱っていく方針で開始した。

初診患者の主訴としては、月経異常(52%)、体重減少および肥満(33%)、不定愁訴(29%)、不登校(14%)、衝動性(10%)、その他の身体症状(24%)、およびその他の精神症状(14%)であった。

診断名は多岐にわたり、身体疾患としては、精巣性女性化症候群、大動脈炎症候群、肥満、骨肉腫化学療法後、ヌーナン症候群、慢性性腺機能低下症、卵巣機能不全症、神経芽細胞種、軽度成長障害、起立性調節障害、外陰炎、インスリン非依存性糖尿病、ターナー症候群、円形脱毛症などが挙げられる。精神疾患としては、身体表現性障害、境界知能、神経性無食欲症、感情障害、抑うつ状態、心因反応、心因性多尿などが挙げられる。

また、隔週で、思春期診療勉強会を平成15年1月から開催し、思春期の成長・発達、思春期によく見られる身体疾患や精神疾患、様々な慢性疾患の思春期、自殺・喫煙・肥満・スポーツ医学・マスメディアの影響など、幅広い分野の講義を予定している。

(b) 入院チーム医療

総合診療部思春期診療科との入院チーム医療は、主として神経性無食欲症12例について行われた。また、身体疾患の精査で入院し、心因性が疑われる症例についての診断評価を行った。

診療活動

思春期診療科の初診患者数は、374名であった。診断分類(ICD-10)としては、F4「神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害」が27%、F9「小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害」が26%、F3「気分(感情)障害」が15%、F8「心理的発達の障害」が10%、F5「生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群(摂食障害など)」が9%、およびその他13%であった。

また、成人年齢に達した、いわゆるキャリアオーバー患者の様々な心理的問題に関する評価と治療を行った。さらに、この1年間は、育児心理科に関する周産期診療部との連携治療も行った。